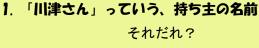
問題 その4 平安時代のお皿のふた。なにやら文字が。 これなんだ? 次の二つの中からえらんでね!





2. 船着き場(ふなつきば)のこと

「津」がつく地名はあちこちにあるねえ。

ヒント 宿宮前(しゅくみやまえ)遺跡から出土しました。 ん?どこかで聞いたことのある名前だ・・・。

1. 船着き場(ふなつきば)のこと

奈良時代から平安時代のはじめころまで、墨(すみ)で文字が書かれた土器がみつかる場 合がけっこうあるんだ。そういう土器を「愚書土器(ぼくしょどき)」っていうんだけど、個 人の名前が書かれることはほとんどなくて、その土器の使われ方や使われる場所に関係する ことが書かれていることが多いんだよ。この場合は、川にある「津」 のことだね。 だから・・・

ピンポン、ピンポン、ピンポーン!!!

せいかい!よくわかったね****

正解は、船着き場(ふなつきば)のこと。川津っていうくらいだから、川にある船着き場 なんだね。川にある船着き場、っていうと、①川のこちら側とあちら側(対岸・たいがん) との間をわたる船の発着場所の場合と、②川の上流と下流、さらには河口から海へとつらな る「水の道」をとおる船の発着場所の場合が考えられるね。①の場合は、「渡し場」っていう ことばに言いかえられるよ。②の場合は、「みなと」っていうことばがぴったりだね。

この文字が書かれたうつわは、平安時代のはじめのころのもの(9世紀中ごろ〜後半ころ)。 その頃の「津」ということばの使い方から考えると、①よりも、②の可能性の方が高いんだ。

くわしくは、「かいせつ」を見てね!

※桜区・宿宮前遺跡(しゅくみやまえいせき)出土。平安時代。